

## 第 37 回埼玉膝・スポーツ医学研究会

【演題】 「活動性の高い変形性膝関節症患者に対する治療戦略」

東京女子医科大学 整形外科学教室 教授・講座主任 岡崎 賢

若年で活動性が高い変形性膝関節症の患者に対して、どのような治療戦略をとるのかは迷うことが多い。人工関節の耐久性が上がってきていること、骨切り術の後療法が短縮され、人工関節と変わらなくなってきていることから、もはや年齢は術式を選択するために検討する因子において以前ほど重要ではなくなった。若年であっても人工関節が選択されるし、高齢であっても骨切り術が選択される。若年で変形が強く、活動性の高い患者はどうするか。人工関節後のスポーツ復帰は可能か。変形が強い患者の骨切り術の成績はどうか。セレコックスなどの投薬による保存療法の限界はどうか。PRP などの細胞治療の成績はどうか。これらの情報から適応を慎重に考える必要がある。